

【日 時】 平成 31 年 2 月 8 日 13:00～15:00

【出 席】 協議会委員

学識経験者、地域の住民、保護者代表の 5 名

学校長

事務局職員 11 名

【会議録】

□ 学校長挨拶

□ 保護者からの意見調査は審議なし

□ 首席より学校教育自己診断の評価結果報告

・教職員診断 7 と保護者診断 8 は同じような内容か。

⇒同じような内容で比較分析をしている。保護者は子どもの実態把握ができていますが、教員はいろいろ悩みながら取り組んでいるのでこのような結果になった。

・保護者の学校経営計画や学校運営協議会の認知度が上がらないのは、参加した人以外は難しいのではないか。

⇒学校の HP を全面的に刷新しており、災害や通学バス情報等を掲載し様々な情報を発信して見てもらえるようにしていきたい。

・教職員診断 11 が下がっているのも、保護者としては学部が変わると不安になる。

⇒学部引き継ぎ会に加え、2 月の公開授業週間では他学部の授業を見学し、子どもの実態把握をしている。また卒業式の後、他学部に入る取り組みもしている。新年度新担任は、摂食指導の VTR を見るようにしているが時間が足りないのが数字にでていとも推測できる。

・丁寧な引き継ぎの意味合いを考える必要があるのでは。

⇒否定的な意見が何から出ているのか、次年度は自由記述欄を設けて分析する。

□ 校長より次年度の学校経営計画策定の報告

・中、高等部の指導計画等の統一を考えているのか。

⇒中、高等部を 6 年で捉えると、学部の引継ぎや教育課程の内容が見通せる。今後教員が減ってくるので、学部を超えた指導を想定しなければならない。

・人工呼吸器の児童生徒に対応するマニュアルとは。

⇒ガイドライン的なマニュアルを作成し、個々に対応できるようにしていく。

・地域ともっと繋がっていくような交流をしてほしい。

⇒花プロジェクトでは、小中学部でパンジーを植え、高等部で近隣の企業や駅にプランターを届けている。

・委員の総意で次年度学校経営計画を承認する。

□ 校長より平成 30 年度学校経営計画の学校評価についての報告。

・2 本の実践論文とは。

⇒読売教育賞と日本教育公務員弘済会大阪支部の教育実践論文を掲載した。

・電動車いすによる指導の成果は。

⇒スイッチを改良しビッグスイッチを手や頭部で押すことで発進・停止を学習している。このような取り組みを進めることで、重度な児童生徒にも試みることができた。また高額ではあるが廊下のラインに沿って動くことのできる電動車いすも開発されている。

さらに今年度、府から予算がつき視線入力装置が各学部に導入される予定である。

・園では基盤の上に座位保持装置等を載せて移動ができる装置を試みている。

・医ケアに関して医師の配置はどのようになっているのか。

⇒2 ヶ月に 1 回、高度医療的ケアの方向性や IVH の管理等の指導のため来校している。

・看護師の募集はどのようにしているのか。

⇒大阪府の HP に掲載している。他に在勤している看護師の人脈に頼っている。岸和田の医師会にも働きかけ看護師の登録制を依頼している。

・講師登録教員とは。

⇒支援部が中心に公募している。登録した教員は、主に地域の合同相談会に参加している。

・学校の組織力向上は今後どのように取り組んでいくのか。

⇒現状は会議時間が長く時間が足りない。会議の効率化を図るため必修と後回し仕事を分け、後者を減らす努力をする。そして残った時間を教材の工夫や子どもに向き合った話ができるようにする。

事務局連絡、閉会

(・ 委員意見 ⇒ 事務局意見)